



TITLE:

伝統木造建物の耐震性評価方法の 画一化に向けた研究集会

AUTHOR(S):

CITATION:

伝統木造建物の耐震性評価方法の画一化に向けた研究集会. 2014: 共同研究（一般研究集会）26K-08.

ISSUE DATE:

2014-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/196326>

RIGHT:

一般研究集会（課題番号：26K-08）

京都大学防災研究所長 殿
〔申請者（研究代表者）〕
氏 名：多幾山 法子
職 名：准教授
所属機関名：首都大学東京

下記のとおり、研究集会の実施結果について報告します。

記

集会名：伝統木造建物の耐震性評価方法の画一化に向けた研究集会
研究代表者：多幾山 法子
所属機関名：首都大学東京
所内担当者名：牧 紀男
開催日：平成26年11月7日
開催場所：メルパルク京都
参加者数：48名（所外 47名、所内 1名）
・大学院生の参加状況：9名（修士 7名、博士 2名）（内数）
・大学院生の参加形態〔聴講〕

研究及び教育への波及効果について

全国の研究者の講演を聴き、意見交換をしたことで、伝統木造に関しての研究がどの程度進んでいるのか理解が深まったとともに、今後の課題についての共通認識を持てた。

研究集会報告

(1) 目的

伝統木造建物の耐震性評価を行う調査研究事例は多く、いずれも構造的特徴を詳細に分析している。伝統木造建物の構造仕様は全国一様ではなく地区独特であるが、構造的に同一視して評価する事例がある一方、地域特有の評価を行った事例も存在し、評価方法が様々である。そこで、地域特有の構造仕様を反映した耐震性評価方法の統一を目的とし、伝統木造建物調査を精力的に行っている研究者に成果報告と今後の課題についてご講演頂き、情報交換の場を設ける。

(2) 成果まとめ

伝統木造建物は、地域の歴史・住文化や気候風土の違いに応じて構造特性や耐震性、耐久性が異なる。一方、立地環境によって地震危険度や地震動特性が異なり、同等の耐震性を持ち合わせた建物でも被災度に差が生じる可能性がある。そのため、建物の構造的特徴と立地環境などを総合的に評価し、より合理的な地震対策を提案する手法を構築する必要がある。以上を踏まえ、建物の耐震性が適切に評価されることが必須となるが、本集会では全国で伝統木造建物の耐震性に関する研究を精力的に行ってきた研究者から、これまでの研究成果の報告がなされ、耐震性評価手法に関して設計へ反映できる形で既往の研究データの収集を行うことなどの議論がなされた。今後、全国の伝統木造住宅の地震対策を総合的に行う上で非常に有用な研究集会となった。

(3) プログラム

主 催：京都大学防災研究所共同研究一般研究集会

日 時：2014年11月7日10時～17時

場 所：メルパルク京都 4階 研修室3,4,5

参加者数：48名

司会／森井雄史（清水建設）

- 1 [主旨説明](#)／多幾山法子（首都大学東京）
- 2 [解体修理を行う木造寺院建築物の工事過程ごとの微振動計測による構造特性調査の事例](#)／向井洋一（神戸大学）
- 3 [地震被害と実験にみる伝統木造の耐震性](#)／腰原幹雄（東京大学）
- 4 [伝統木造住宅における通し柱の構造性能](#)／佐藤弘美（東京大学）
- 5 [京都府における伝統木造建物の耐震性検討事例](#)／多幾山法子（前掲）
- 6 [地域性を踏まえた伝統木造建物の地震対策への課題](#)／林 康裕・杉野未奈・南部恭広（京都大学）
- 7 [振動台実験による構造性能調査方法の事例](#)／荒木康弘（建築研究所）
[伝統的構法による木造建築物の地震応答解析](#)／中川貴文（国土交通省国土技術政策総合研究所）

8

9 [木造建築の腐朽・蟻害](#) / 森拓郎（京都大学）

10 文化財建造物の耐震改修事例 / [宮本慎宏（香川大学）](#)・[守屋友貴（建築研究協会）](#)

11 [パネルディスカッション](#) / 司会：五十田博（京都大学）

12 [まとめ](#) / 渡辺千明（秋田県立大学）